

第 1 章 将来都市像の設定

1. 広域的な都市連携に向けて

広域的な都市連携におけるまちづくりの方向性を設定し、広域的な発展の中で有効に機能できる将来都市像の設定を目指します。

(1) 広域観光・レクリエーション拠点づくり

日光国立公園の一翼を担う観光・レクリエーション拠点として、交通渋滞等の問題を解消しつつ、さらなる拠点性の強化を図ります。このため、広域交通ネットワークの形成をはじめ、那須町らしい都市環境づくり・拠点施設づくりなどを図ります。

(2) 広域連携による将来構想への対応

定住自立圏やF I T構想等の広域的な連携構想等における効果を取り込む必要があります。広域連携地域については、良好な自然環境を活かすことを基本的な理念として掲げ、十分な資質を備えているといえる那須町においては、保全と活用のバランスに配慮した土地利用・開発等となるよう、適正な誘導を図ります。また、そうした規制・誘導等の根拠となる明確なビジョンづくりを図ります。

(3) 広域交通ネットワークの有効活用

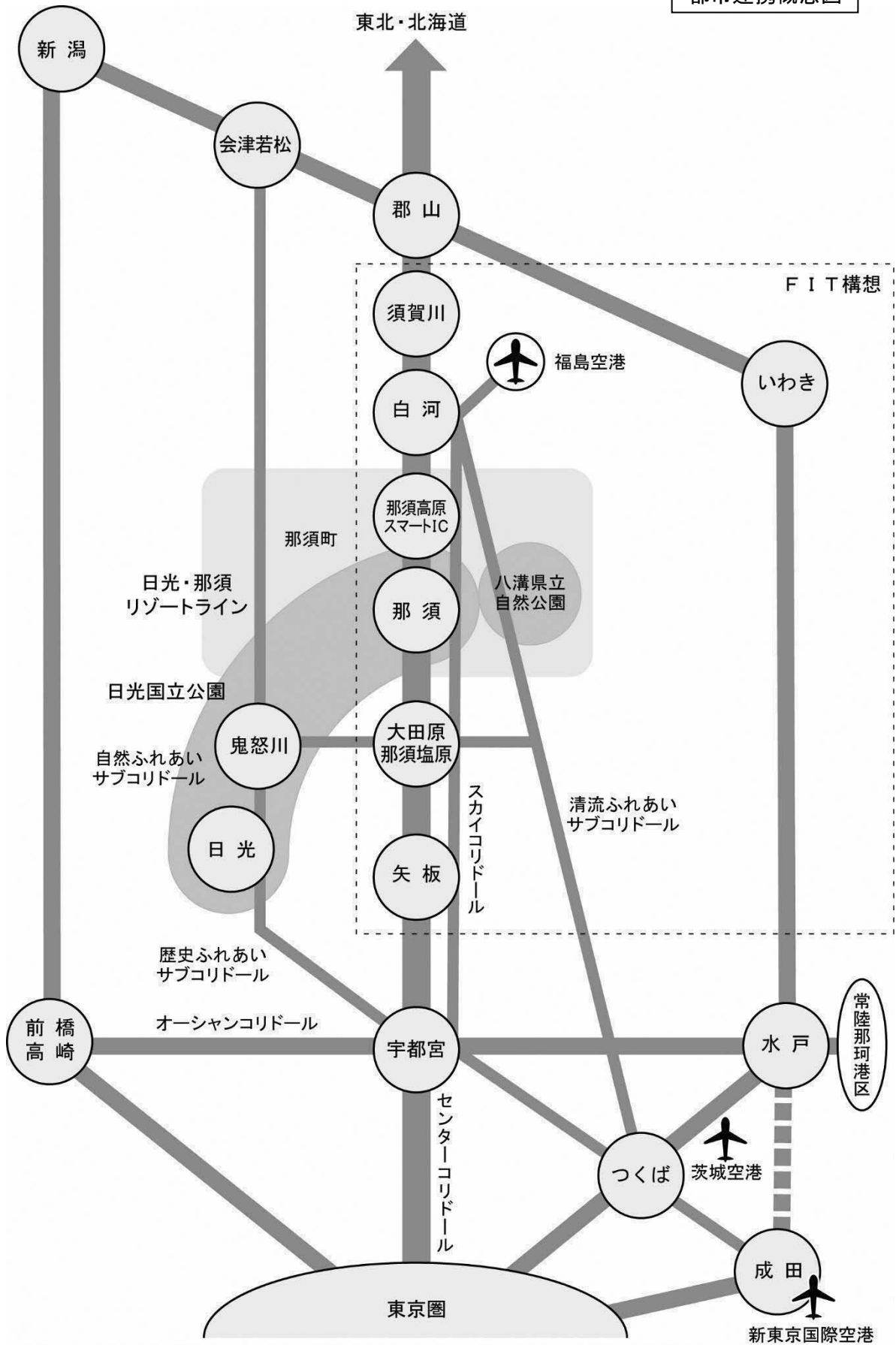
本町は、栃木県のまちづくり重点戦略を示す「とちぎ元気発信プラン」のコリドール(*)ネットワークにおいて、関東・東北を結ぶ国土軸（東北自動車道・国道4号・東北新幹線・東北本線等）や新東京国際空港と福島空港を結ぶスカイコリドール上に位置するなど、広域的な都市連携の基盤をなす交通体系上にあります。この特性を、都市連携による観光・レクリエーション機能の強化、新たな都市機能の育成（筑波研究学園都市と郡山テクノポリスを結ぶスカイコリドールを活かした先端産業等）などに活かせるような交通ネットワークの構築を図ります。

特に、観光シーズン等の交通渋滞は、観光・レクリエーション拠点形成及び良好な都市環境形成において解消すべき大きな課題となっていることから、交通量抑制や駐車場配置など、道路網以外による方策についても視野に入れて検討します。

上記の東日本レベルでのネットワークに加え、那須高原スマートIC周辺における有効な土地利用や、那須塩原市との連携において重要となる新高久周辺地区における都市計画道路の機能強化（整備推進や新たなルートの検討）など、近隣市町、県内、定住自立圏、F I T構想エリア等における多様なネットワーク形成及びその有効活用に向けた取組を進めます。

※コリドールとは交通基盤等を軸に、人、物、情報、技術、産業、文化などが活発に交流し、これらを通して有機的な連携が図られる地域の連なり。

都市連携概念図



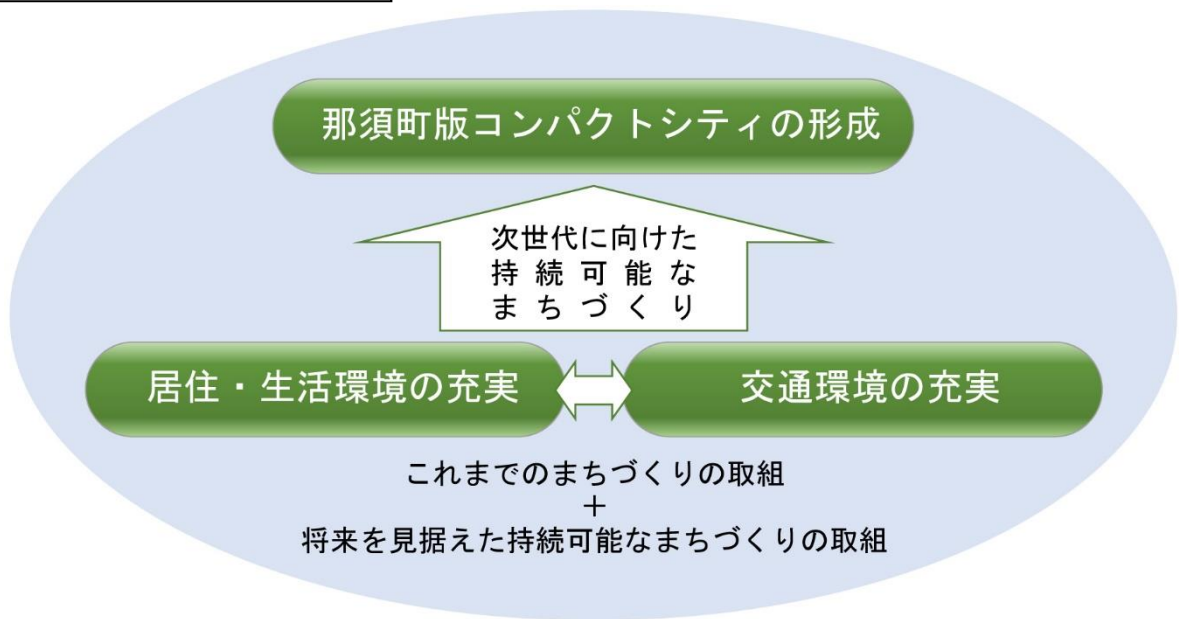
2. 計画の基本理念

(1) 基本的な考え方

基本理念については、現況における課題と将来都市像のために必要となる方向性を考慮し、計画のテーマ及び計画の基本方針を定めます。

基本的な考え方としては、現況特性の整理より抽出された総合的な課題を踏まえ、那須町らしいまちづくり実現のために、計画テーマの設定と、テーマを実現するための基本方針を設定します。

総合的な課題の関係の模式図



【那須町版コンパクトシティの考え方】

国が提唱するコンパクトなまちづくり	“那須町版コンパクトシティ”
<p>《国土のグランドデザイン 2050》</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少下において、行政や医療・福祉、商業等、生活に必要な各種のサービスを維持し、効率的に提供していくためには、各種機能を一定のエリアに集約化（コンパクト化）することが不可欠。これにより各種サービスの効率性を確保。 コンパクト化だけでは都市機能によるサービス成立のために必要な人口規模を確保できないおそれがあるため、各地域をネットワーク化することにより圏域人口を確保。 <p>《都市再生特別措置法（立地適正化計画制度）》</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市のまちづくりは、医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直し、コンパクト・プラス・ネットワークの考えで進めていくことが重要。 	<p>“那須町らしい市街地・集落等を守り、つなげるコンパクトシティ形成を目指す”</p> <ul style="list-style-type: none"> 本町は、人口減少・高齢化が著しく、町民の生活に必要な生活サービス機能の確保が大きな課題であり、効率的なサービス維持のためのコンパクトシティ形成が不可欠です。 広大な町域に市街地・集落・別荘地など多様な暮らしが営まれている本町の都市構造においては、市街地（黒田原地区、湯本地区）をコンパクトシティの中心として都市機能を維持するとともに、自然・観光・農業・酪農などと共生した集落・別荘地についても「那須らしさのある生活・風土」の場として守っていきます。 集落等において必要な生活サービスを確保するため、市街地（黒田原地区、湯本地区）をはじめとする町内のネットワーク、周辺市町との補完的ネットワークを充実させることでコンパクトなまちづくりを進めます。

(2) 計画のテーマ

『第7次那須町振興計画』における将来像の実現を前提に、都市計画部門の指針となる本計画が目指すテーマを設定します。

《『第7次那須町振興計画』における将来像》

みどり輝き活気と笑顔あふれるまち ふるさと那須



《本計画におけるテーマ》

“みどり輝き活気と笑顔あふれるまち”を次代へつなぐ都市づくり
豊かな緑のふるさと・那須

◆みどり輝き活気と笑顔あふれるまち

『第7次那須町振興計画』が掲げる将来のまちの姿の実現を目指すため、テーマの前提となる部分に取り入れます。




◆次代へつなぐ都市づくり

都市計画部門としては、こうした将来のまちの姿を「実現」とともに、コンパクトシティや既存ストック活用などの持続可能なまちづくりなど、実現されたまちの姿を次の世代にも「維持・継続」することを基本理念とした取組を進めます。

◆豊かな緑のふるさと・那須

上記のまちづくりを進めることで、暮らしや産業など豊かで活力あるまちを目指すとともに、振興計画が掲げる、本町の最大の魅力である豊かな緑と一体となった“ふるさと那須”の環境を守り育てていきます。

【振興計画と整合させた「SDGs」のまちづくりの考え方】

『第7次那須町振興計画』主要施策（本計画関連）	本計画における整合
(1) “自然・環境・共生”のまち（自然、環境） 	自然環境の保全・活用、集落まちづくり等における整合
(2) “住まい・暮らし・定住”のまち （住環境、都市基盤、定住）	 都市計画部門の主な取組として整合・反映
(4) “観光・交流・連携”のまち （観光、交通、コミュニティ活動）	活力・魅力あるまちづくり（ネットワーク含む）における整合
(5) “しごと・活力”のまち （農林業、鉱工業、商業）	
(6) “安全・安心”のまち （防災、防犯、交通安全）	 安全・安心に暮らせるまちづくりにおける整合

*アイコンの記載内容（出典：国際連合広報センターホームページ）

- | | |
|------------------|----------------------|
| 2：飢餓をゼロに | 3：すべての人に健康と福祉を |
| 6：安全な水とトイレを世界中に | 7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに |
| 8：働きがいも経済成長も | 9：産業と技術革新の基盤をつくろう |
| 11：住み続けられるまちづくりを | 12：つくる責任 つかう責任 |
| 13：気候変動に具体的な対策を | 14：海の豊かさを守ろう |
| 15：陸の豊かさを守ろう | 16：平和と公平をすべての人に |

(3) 計画の基本方針

① コンパクトなまちづくりに向けた土地利用の確立

コンパクトなまちづくりに向けた全町的な整備・開発及び保全の方針や地域別の土地利用方針の確立を図ります。このため、コンパクトシティにおいて核となる各種拠点の明確化や、重点的に取り組む課題や事業などの優先順位・スケジュールなど、人口減少及び少子超高齢社会に求められるまちづくりの方向性を定めるものとします。

② 道路交通・公共交通の連携による交通ネットワークの構築

広域的な交通網への良好なアクセス確保、那須高原における交通渋滞解消、湯本地区・黒田原地区の市街地を中心とした全町的な移動環境向上などの課題に対応するため、道路（幹線・補助幹線・生活道路等）の機能や整備効果（拠点間のネットワークや土地利用との相乗効果等）、公共交通との連携などを踏まえた交通ネットワークの構築を図ります。

③ コンパクトシティにおける市街地・集落の位置付けに応じた居住環境・都市基盤の整備

人口減少及び少子超高齢社会に対応したコンパクトシティ形成に向け、生活サービスや居住の中心となる市街地の機能を向上させながら、持続可能な集約型都市構造の実現を目指します。

このため、市街地における都市機能の維持・向上、定住の場としての居住環境の向上を図るとともに、道路・下水道などのインフラについても充実を図ります。

併せて、市街地以外の集落においては、地域の実情に応じた必要な生活サービス機能の維持と公共交通による移動環境の確保など、国が進める“小さな拠点”の方針に基づく居住環境づくりの方針を定めるものとします。

④ 那須町らしい環境の保全と那須の地域資源を活かしたまちづくりのための有効活用

日光国立公園や八溝県立自然公園などの良好な自然環境はもとより、平地林や田園風景など、那須町らしい良好な環境の保全を図るため、環境保全の方針を定めるものとします。

また、環境保全を前提にした有効活用（那須高原の観光・レクリエーション拠点・施設、公園・緑地の整備等）による那須特有の地域資源を活かしたまちづくりの方向性を定めるものとします。

⑤ 安全・安心な生活・産業・観光等の活動基盤づくりに向けた防災機能の確保

環境保全や居住環境整備など、まちづくり全般において防災機能の向上による安全・安心な環境の確保を図るものとします。特に那須町においては、山岳・森林地帯が多く、生活・産業だけでなく観光・レクリエーションの場としても利用されていることから、火山防災・砂防その他の自然災害に対する防災機能の確保を図ります。

また、近年の激甚化する水害や土砂災害を踏まえた“国土強靱化”の視点による防災に対する重要性が高まっており、安全・安心に暮らせる居住環境形成に向けた防災機能についても十分な確保を図ります。

⑥ 那須ブランドを活かした観光・レクリエーション支援機能の充実

広域的な観光・レクリエーション拠点との連携強化を図るためのネットワークの構築、土地利用における観光・レクリエーション活動を支援する機能の充実など、那須ブランドを活かした活力あるまちづくりに向けた都市計画部門の取組方針を定めます。

3. まちづくりの骨格

(1) 土地利用の骨格（ゾーニング）

① 自然環境ゾーン

日光国立公園を中心とした良好な自然環境のゾーンで、自然公園法（特別地域等）の規制に基づき優れた自然環境の保全を図ります。ただし、これらの自然環境については、那須高原の観光・レクリエーション拠点形成においても重要な位置付けであることから、環境保全を前提とした有効活用を図ります。

湯本地区区については、温泉観光地が形成されており、安全・快適な観光活動支援や居住環境向上のため、下水道の整備が進められ、用途地域（及び準防火地域）や都市計画道路が都市計画決定されています。今後は、こうした事業の円滑な推進を図るとともに、景観形成にも配慮した質の高い観光地としての空間形成を図ります。

② 田園・保養地ゾーン

森林・平地林、営農地（特に酪農）、集落による那須町らしい田園地帯に、那須高原の良好な自然環境を活かした別荘地開発がみられるゾーンで、この田園地帯の環境と調和した良好な保養地としての空間形成を図ります。

また、保養地については定住人口の受け皿としての居住環境形成を図ります。

③ 田園・平地林ゾーン

②田園・保養地ゾーンと同様、那須町らしい田園地帯に別荘地や観光・レクリエーション・レジャーなどの開発がみられるゾーンであり、特に良好な平地林が特徴となっていることから、こうした自然と調和した観光拠点としての空間形成を図ります。

良好な平地林については、地域の貴重な自然資源として保全を図りますが、同時に、自然にふれあえる場として、環境保全に十分配慮しつつ、有効活用を図ります。

また、農業生産基盤や畜産環境の整備により農業・酪農の産業振興を図ります。

那須高原（自然環境ゾーン、田園・保養地ゾーン、田園・平地林ゾーン）の観光・レクリエーション拠点形成

上記①～③の3つのゾーンによる“那須高原”においては、スキー場・レジャー施設の立地や御用邸用地の一部が宮内庁から環境省に移管され那須平成の森として開園するなど新たな拠点が形成されています。また、農業、特に酪農については、観光地等との複合的な展開がなされており、那須高原独自の観光・レクリエーションのスタイルとして確立されています。今後ともこれらの拠点形成を促進しつつ、より自然との調和・共生を重視した那須町らしい開発・運営となるよう誘導を図ります。

④ 活力創生ゾーン

黒田原地区、新高久周辺地区、菱喰内工業団地、高久駅周辺地区などの拠点市街地・主要集落が国道4号を中心に集積し、また那須塩原市の市街地にも隣接しているなど、優れた立地特性を有するゾーンであるため、各地区の機能や立地特性を活かした定住促進、産業振興など、今後の本町のまちづくりを牽引する活力を創生する機能の充実を図るものとします。

黒田原地区については、行政・商業・居住などの機能が集積した町の都市活動・都市サービスの拠点として位置付けられます。今後ともこれらの機能を維持・充実させ、本町が目指すコンパクトシティの中心としてのまちづくりを図ります。

新高久周辺地区については、那須IC及び国道4号による交通利便性、大型商業施設や那須塩原市との近接性による生活サービス機能の確保など、良好な居住拠点としての条件を有していることから、農地・森林などの土地利用との整合を図った上で、用途地域や特定用途制限地域の検討などにより計画的なまちづくりを図ります。

菱喰内工業団地については、町の産業拠点としての機能向上のため、国道4号からのアクセス強化や那須IC及び那須塩原市方面へのネットワーク強化などにより、交通利便性に優れた産業拠点形成を図ります。また、産業振興に向けた新たな産業拠点についても候補地の検討を行います。

本ゾーンに近接する那須高原スマートIC周辺地区においては、交通利便性を活かした新たな拠点形成のため、未利用地を活用した有効な土地利用について研究を進めます。

土地利用計画（用途地域）の方針

黒田原地区における用途地域については、適正な市街地規模や都市計画道路廃止を踏まえ区域縮小が行われましたが、都市計画道路と一体的に沿道型の区域指定部分が残っていることから、当該部分の土地利用イメージを踏まえた見直しを行います。

また、下水道事業との整合を図りながら用途地域を指定した経緯を踏まえて見直しを行います。

新高久周辺地区においては、那須IC・国道4号等の交通利便性や那須塩原市との近接性により良好な住宅地としての環境を有しており、今後はスプロール抑制と計画的なまちづくり誘導のため用途地域等の地域地区指定を検討します。

⑤ 田園・地場産業ゾーン

水田や森林に囲まれた農村集落による那須町らしい田園地帯が形成され、こうしたふるさとの風景や良好な農業生産基盤を維持しつつ、地場産業である林業・鉱工業の振興を図ります。

芦野地区・伊王野地区については、歴史・文化財や森林・水田・集落が織りなす独自の景観を活かし、那須高原地区とは趣を異にした魅力が感じられる拠点としての空間形成を図ります。また、遊行庵や道の駅東山道伊王野、古道の風情が感じられる沿道景観、国道294号のネットワークなどの地域資源を活かしたまちづくりを図ります。

⑥ 森林ゾーン

八溝県立自然公園を中心とした良好な自然環境を有するゾーンで、本町固有の自然環境の保全を図ります。

ただし、⑤田園・地場産業ゾーンと同様に農業・林業の生産基盤ともなっており、環境保全とのバランスに配慮しつつ、農業・林業振興のための取組を進めます。

土地利用構想 ゾーン区分図



(2) 交通体系の骨格

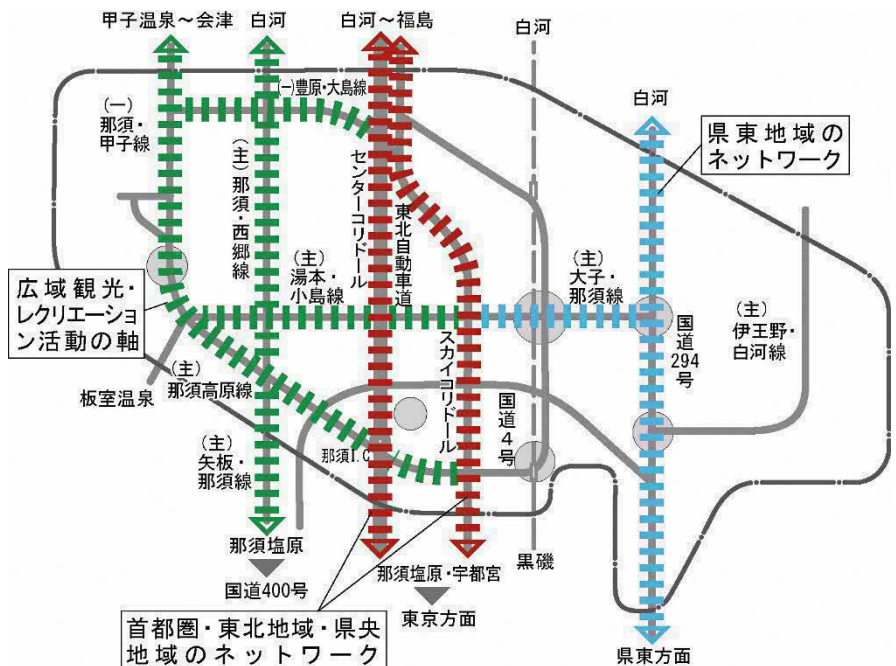
広域ネットワークを勘案しつつ、町内における交通ネットワークの骨格を位置付けます。

広域ネットワーク

【首都圏～東北】

東北自動車道・国道4号による南北の国土軸が機能しています。

この国土軸を中心に、国道294号等による県東地域のネットワーク、那須高原方面への観光・レクリエーションのネットワークを位置付けます。

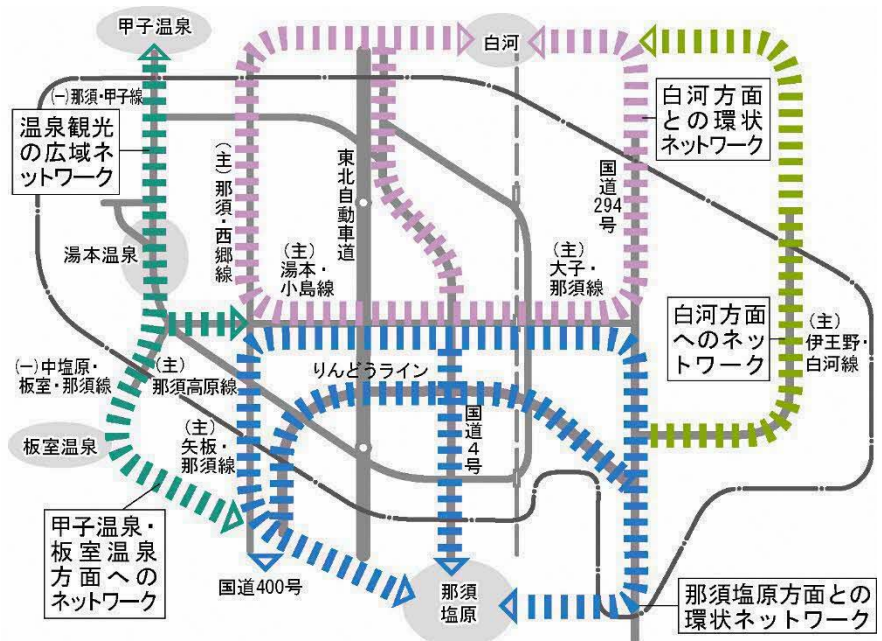


【周辺地域】

国道4号・国道294号を中心に那須塩原・白河の各拠点都市との環状ネットワークが形成されます。

りんどうラインは国道4号とともに、那須塩原市街地とのネットワーク軸として位置付けます。

また、湯本温泉を中心に板室温泉及び甲子温泉を結ぶ軸は広域的な温泉観光の軸としても位置付けます。



① 生活・産業・観光の基幹軸

東北自動車道・国道4号は、関東・東北を結ぶ南北の国土軸であり、本町における生活・産業・観光の各種活動における大動脈として機能していることから、町内の各地域・各拠点に広域交通や交流人口・定住人口等を誘導する軸として有効活用を図ります。

このため、東北自動車道の6車線化や国道4号の4車線化などを促進するとともに、町内交通ネットワークにおける基幹軸として位置付け、接続する路線の良好なアクセス確保を図ります。

② 生活の基幹軸

国道4号以東の国県道及びりんどうラインは、都市活動拠点である黒田原地区を中心に拠点・集落、鉄道駅などを連携する主に生活交通の基幹軸として位置付けます。

黒田原地区における（主）大子・那須線や（一）豊原・高久線の改良、りんどうラインの整備により町域東部と那須高原方面を結ぶネットワークが向上し、この軸上における黒田原地区の位置付けが重要になることから、土地利用・都市機能を強化する基盤としての交通ネットワークの維持・向上を図ります。

また、那須塩原・大田原・白河などの周辺地域との連携にも資する軸として位置付け、新高久周辺地区の都市計画道路との一体的なネットワーク構築によりさらなる機能の充実を図ります。

③ 観光の基幹軸

国道4号以西の県道等を主に那須高原地区における観光の基幹軸として位置付けます。

（主）那須高原線を中心に広域的な観光・レクリエーション活動等を支える軸として機能していますが、交通渋滞の解消が長年の課題となっており、補助幹線ルートやICT（情報通信技術）の活用等、ハード・ソフトによる対策を講じながらネットワーク機能の向上を図ります。

④ 都市計画道路

新高久周辺地区においては、那須ICや那須塩原市街地等をネットワークする都市計画道路3路線が位置付けられており、新高久周辺地区の土地利用誘導や菱喰内工業団地を中心とした産業活性化などに重要な役割を果たすことから、未整備区間の整備推進を図ります。

湯本地区においては、観光振興に寄与するまちづくりのため都市計画道路5路線が位置付けられています。

⑤ 交通ネットワークの強化

④に記載のとおり、新高久周辺地区における道路網については、菱喰内工業団地の交通利便性を高め、産業活性化の軸とするため、国道4号からのアクセスルートや那須IC方面へのネットワークの充実を図ります。

那須IC方面へのネットワークについては、那須塩原方面との連携にも資するよう、（都）3・5・1号黒磯那須北線と連携する新たな都市計画道路ルートを検討します。

⑥ 鉄道（生活・観光）

広域的な公共交通軸、超高齢社会における重要な移動手段、車による交通渋滞の緩和、観光・レクリエーション活動の基点など、鉄道（駅）の果たす役割は大きく、公共交通施策と連携しながら、運行環境の維持や利用環境の向上等を図ります。

都市構造の面からも、中心市街地である黒田原市街地に黒田原駅があり、コンパクトシティに求められる「公共交通結節点である駅を中心に歩いて利用できる範囲に生活サービスが集積した市街地」が形成されています。高久駅周辺においても分譲地が集積し、鉄道利便性に優れた居住環境が形成されています。こうした条件を有効活用し、公共交通と土地利用が連携したコンパクトなまちづくりの基盤として鉄道（駅）の有効活用を図ります。

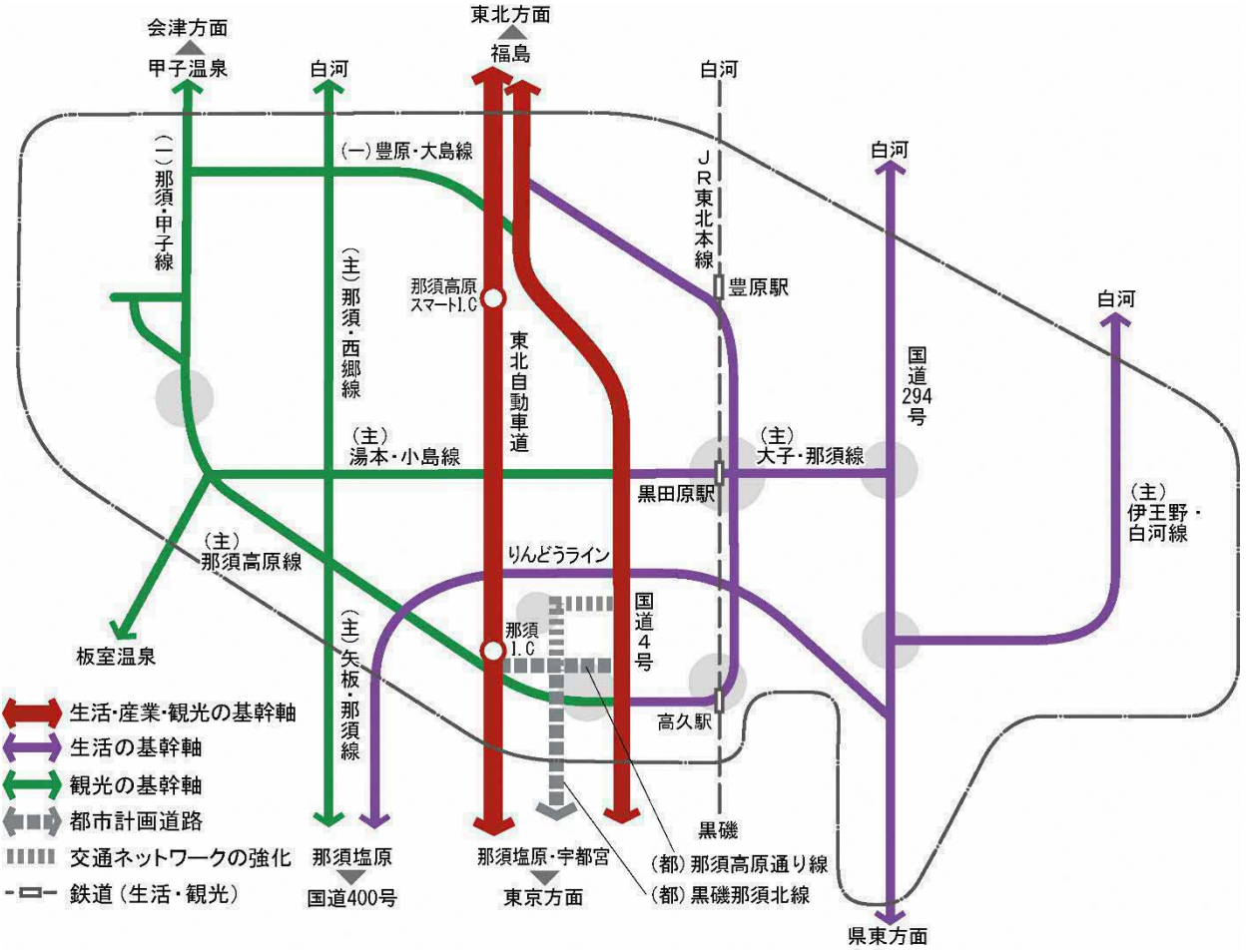
⑦ 公共交通

人口減少・少子超高齢社会の進展に伴い、本町においても従来の道路交通を主体とした交通ネットワークに加え公共交通を充実させることで、今後の高齢者等の移動ニーズに対応した誰もが移動しやすい、暮らしやすい環境づくりを図ります。

コンパクトなまちづくりにおいても、市街地と集落を結び、全町的に誰もが必要な生活サービス機能を利用できる環境づくりのため公共交通が重要となります。さらに本町の特性として観光活動を支援する公共交通機能についても充実を図ります。

現在、生活交通として町民バス、デマンド型乗合交通の運行、JR東北本線、民間の路線バス、タクシー、観光活動を支援する公共交通として那須高原観光周遊バス（きゅーび一号）により公共交通網が形成されています。今後ともこれらの公共交通の運行を維持するとともに、利用者ニーズに対応した利便性向上などを図ります。

交通体系の骨格



(3) 水と緑の骨格

那須高原、八溝山系、那珂川などの水と緑は、本町らしい魅力を活かしたまちづくりの資源として保全・活用を図ります。観光・レクリエーション拠点、歴史・文化拠点、景観計画における景観形成重点地区などのネットワークを勘案しつつ、町内における水と緑の骨格を位置付けます。

① 水の軸・拠点

町内には一級河川那珂川をはじめ、多くの河川があり、森林・平地林や那須高原の雄大な環境と一体的に良好な環境・景観を形成しています。

主要な河川については、高原や森林・山岳などが主体の本町の観光・レクリエーション活動において、潤いや親水などの魅力を味わえる水の軸として位置付けます。主要な湖沼・ダムについても同様に水の拠点として位置付けます。市街地・集落などに近接する部分においては、公園・緑地等の親水空間としての有効活用を図ります。

特に黒田原地区においては、市街地にほぼ接して余笹川が流れており、うるおいと魅力ある豊かな居住環境に重要な役割を果たしています。このため余笹川ふれあい公園など市街地に隣接した親水空間への安全・快適なアクセスを充実させるなど、住民が豊かに暮らせる環境づくりへの有効活用を図ります。

保全が望まれる良好な環境・景観を形成している自然資源等については、風致地区や緑地保全地区などによる保全方策の検討を図ります。

② 那須高原の魅力を感じる軸

(主) 那須高原線から (一) 那須・甲子線とつながるルートについては、沿道の平地林や雄大な那須高原の景観を楽しみながらのドライブなど、那須高原の魅力を感じられる軸となっています。沿道の景観も、アカマツ林～那須高原の丘陵地帯・平地林・牧場～湯本温泉街～那須連山の山岳地帯と変化に富んでおり、本町の魅力を高める軸として大いに活用・PRすべき資源となっています。

今後とも自然公園法等に基づき自然環境の保全に努めるとともに、景観条例や屋外広告物条例などの規制・誘導対策を推進し、良好な空間形成を図ります。

《アカマツ林の景観軸》

アカマツ林を通る (主) 那須高原線が個性的な並木道の景観軸となっています。

今後とも、自然公園法及び景観条例による規制に加え、国有林管理者との連携によるアカマツ林の保全と維持・管理、(主) 那須高原線の適正な維持・管理促進などにより、那須 I C や国道 4 号から那須高原への玄関口としてシンボルとなる良好な空間形成を図ります。

《那須連山の景観軸》

那須連山の麓を通る (主) 那須高原線、(一) 那須・甲子線が茶臼岳等の雄大な山岳と融合した特徴ある景観軸となっています。今後とも、道路の適正な維持・管理により安全・快適な道路環境形成を図るとともに、沿道の施設や建物と一体的に観光・レクリエーション活動の魅力を向上させる良好な空間形成を図ります。

③ 自然と歴史を感じる軸

国道 294 号沿いは、森林、水田・農村集落、歴史・文化資源による独自の雰囲気を持つ景観軸となっており、これらを保全するとともにさらなる景観形成に取り組みながら“ふるさと那須”の風景を維持します。

芦野地区・伊王野地区全体をエコ・ミュージアム（地域まるごと風土博物館）として位置付け、街並み整備や地域資源の掘り起こしを行い、また、道の駅東山道伊王野における情報提供やグリーンツーリズム（農家民泊等）による地域活性化機能などの充実を進め、訪れる観光客の滞在・周遊等の拠点形成を図ります。

④ 那須高原の自然環境・景観

那須高原においては、広域的な観光・レクリエーション拠点の基盤としてふさわしい良好な自然環境・景観が形成されており、今後ともこうした環境を維持しながら、自然と調和を図り、道の駅那須高原友愛の森の直売所や農家レストランによる農産物等を活かした体験型・回遊型の活動、地域資源を活かした地産地消などによる活性化を図ります。

⑤ 八溝の自然環境・景観

八溝山系の森林等の自然環境や、山と農村風景が織りなす景観の保全を図るとともに、八溝県立自然公園については多くの人が憩い、楽しめる空間の保全・活用を図ります。

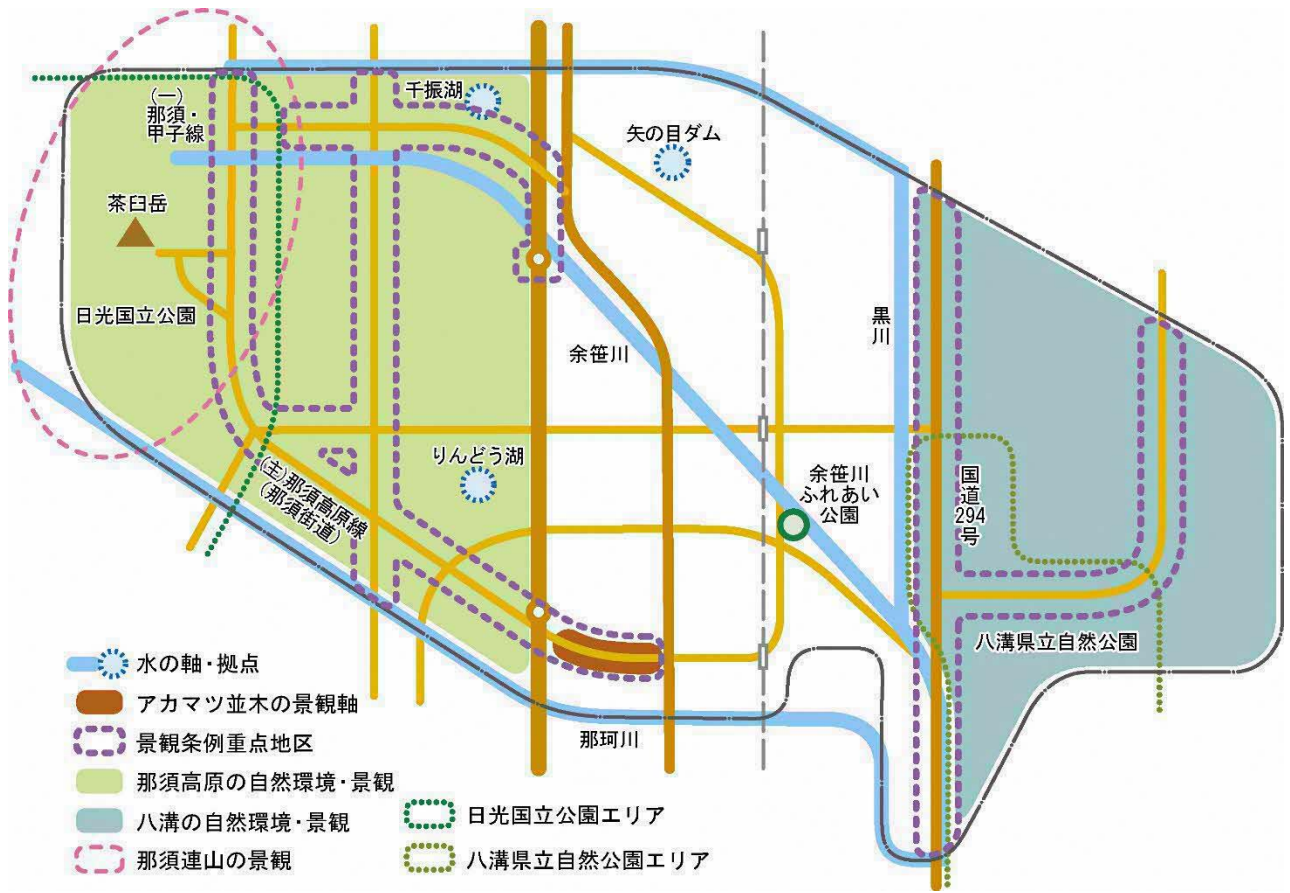
国道 294 号や（主）黒磯・棚倉線沿道は、上記③のとおり“ふるさと那須”の良好な景観の維持、芦野地区・伊王野地区における地域資源を活かしたまちづくりなどを図ります。

⑥ 那須連山の景観

茶臼岳をはじめとする那須連山の自然環境と雄大な景観の保全を図ります。

また、ハイキングや登山など、幅広い年齢層が那須連山の風景を楽しみ、自然と親しみながら健康増進・レクリエーション等の活動を行う場として活用されていることから、多くの人が安全・快適に利用できる環境づくりを図ります。

水と緑の骨格



(4) 拠点配置の方針

① 都市活動拠点

黒田原地区について、行政・商業・居住などの機能が集積した都市活動拠点として位置付けます。

今後は、中心市街地としての居住環境向上や活力・にぎわい・魅力づくり、下水道事業と連動した用途地域検討などの取組を進めながら、町の都市活動拠点にふさわしい都市環境形成、都市サービスの充実などを図ります。

② 観光商業拠点

湯本地区について、温泉を中心とした国際的な観光商業拠点として位置付けます。

今後とも歴史のある観光地としての景観形成と回遊性の向上を図るとともに、観光活動や住民生活における安全・安心な環境形成を図ります。

③ 地域生活拠点

新高久周辺地区・高久駅周辺地区・芦野地区・伊王野地区について、地域の生活を支える機能を有する地域生活拠点として位置付けます。

高久駅周辺地区については、鉄道駅や住宅分譲地集積などを活かした定住の受け皿となる居住環境づくりを検討し、新高久周辺地区と一体的に那須塩原方面との連携に優れた生活拠点形成を図ります。

芦野地区・伊王野地区については、自然と歴史資源を活かした交流機能を併せ持つ生活拠点形成を図ります。

④ 産業拠点

菱喰内工業団地について、町の産業拠点として位置付けます。

今後は、都市計画道路等の道路網整備による那須 I C や近隣市町等とのネットワーク向上を図るとともに、企業立地及び操業環境の維持により良好な産業拠点形成を図ります。

また、産業振興に向けた企業誘致、定住促進につながる働く場の確保、市街地・集落等の工場等の集約などのため、新たな産業拠点の候補地についても検討を進めます。

⑤ 広域交流拠点

道の駅那須高原友愛の森・道の駅東山道伊王野について、休憩・地域情報発信などの機能を備えた広域交流拠点として位置付けます。

今後は、広域的な観光・交通ニーズを活かした地域活性化機能、地域の生活を支える機能、防災機能を備えた拠点形成を図ります。

⑥ 商業・住居系の拠点形成

黒田原地区・新高久周辺地区について、生活サービス機能を備えた定住の拠点として位置付けます。

黒田原地区については、黒田原駅や既存の生活サービス機能の集積による利便性の高い居住環境を備えた商業・住居系の拠点とします。

新高久周辺地区については、隣接する那須塩原市（黒磯駅周辺）の市街地における生活サービス機能による利便性を活かすとともに、アカマツ林等の自然と調和した那須町らしい居住拠点形成を図ります。

黒田原地区においては民間活力を活用した住宅整備事業が行われており、総合戦略に基づく定住促進を具体化するため、市街地内や新高久周辺地区など住宅地形成の条件を備えるエリアにおいて事業の導入を図ります。

⑦ 観光の拠点形成

（主）那須高原線沿線や湯本地区において、那須高原の観光・レクリエーション活動を支援する拠点形成を図ります。

道の駅那須高原友愛の森の観光・防災機能等の充実、湯本地区における安全・快適で魅力ある温泉観光地づくり、茶臼岳等の那須連山の自然を親しめる観光・レクリエーションの場づくりなどを図るとともに、那須高原の課題である交通渋滞緩和のため、道路交通網の構築や公共交通と連携したパークアンドバスライド機能などのハード・ソフト両面での対策を検討します。

⑧ 公園・緑地の拠点形成

市街地の都市機能・魅力の向上に資する公園・緑地の拠点形成を図ります。

黒田原地区においては、那須町中央運動公園や余笹川ふれあい公園を市街地のにぎわいづくりに活かすとともに、街なかの公園・広場等については身近な憩い等の場として安全・快適な利用環境の確保を図ります。

新高久周辺地区においては、高久愛宕山公園と筒地河川公園を地域特性を活かしたうるおいのある憩いの場として適正な維持・管理や利用環境向上等を図ります。

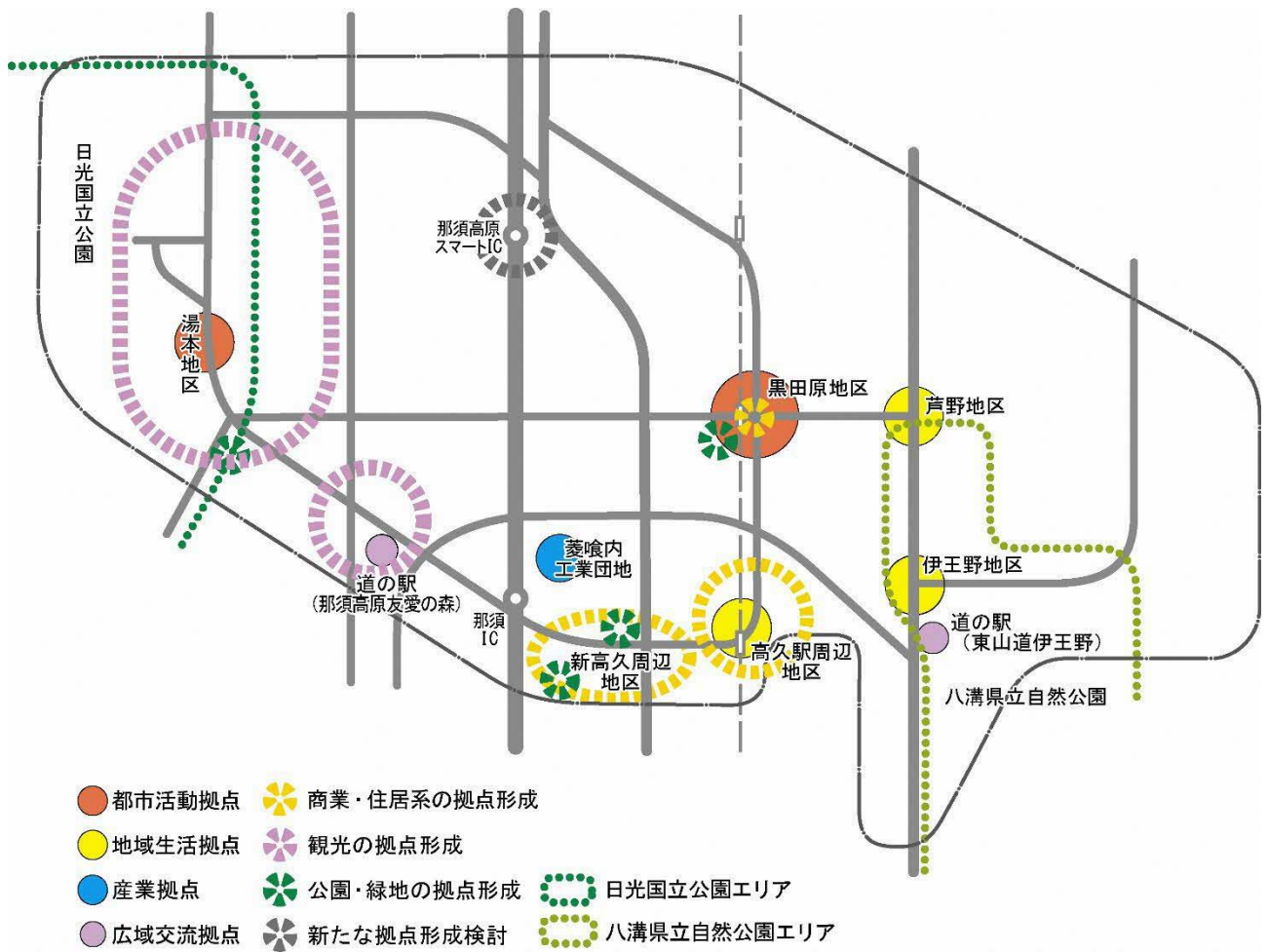
⑨ 新たな拠点形成検討

東北自動車道那須高原スマートIC周辺において、産業等の開発動向や民間活力の利活用、未利用地の有効活用などを踏まえながら、町の活力向上や地域活性化などに向けた土地利用を図るなど、交通利便性に優れた新たな拠点形成を検討するエリアとして位置付けます。

⑩ 公園エリア

日光国立公園・八溝県立自然公園について、自然公園法に基づく保全を図るとともに、本町の魅力を活かした観光・レクリエーションエリアとして、自然環境との調和・共生を前提にした有効活用などを図ります。

拠点配置方針図



(5) 将来都市構造

(1)から(4)までの都市の骨格により、本町が目指す将来都市構造を下図のとおり設定します。

将来都市構造図

